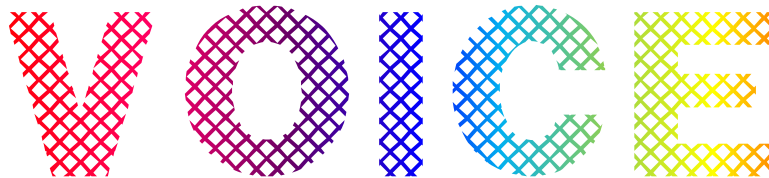


福岡県スクールソーシャルワーカー協会第4回大会

振り返ろう！学校ソーシャルワーク実践 — スクールソーシャルワーカーたちの主張 —



「改めて学校ソーシャルワーク実践を振り返る」

2015年5月16日（土）に春日市にあるクローバープラザで本協会の第4回大会を開催しました。スクールソーシャルワーカー事業8年目を迎える今年の大会テーマは、「振り返ろう！学校ソーシャルワーク実践 —スクールソーシャルワーカーたちの主張—」でした。このテーマは、実践現場で奮闘するワーカー視点で学校ソーシャルワークを熱く語ってほしい、またその中で今一度、日本の「学校」で求められているソーシャルワークを会員の皆さまと一緒に考え今後の実践に役立てたいという思いを込めたものでした。プログラム内容としては、県内でスクールソーシャルワーカー（以下、SSW）として活動している1年目のSSW（村松静予氏）、3年目のSSW（川野真実氏）、5年以上経験のSSW（野中勝治氏）の3名をお呼びし、シンポジウム形式での報告と協議が進められました。各シンポジストからは、オリジナルな活動や経験を生かした実践などが報告され、学生会員をはじめ、1年目から8年目までの現任者、関係者の方々が興味深く、真剣に話を聞いておられました。その後の協議でも、全てを紹介できないくらい多くの質問をフロアからいただきました。全体として80名を超える方々にご出席いただき、盛会のうちに第4回大会を終えることができました。協会としましても、今大会を通して、学校ソーシャルワークの重要性・必要性を再認識しました。本大会開催にあたってご協力いただきました協会関係者、学校関係者、行政機関の皆さま、本当にありがとうございました。

また、本大会前に開催された年次総会では、2期目の役員が選出されました（1期と同じメンバー）。今期に関しましても、役員が一丸となり、会員の皆さまの学校ソーシャルワーク実践をサポートできるよう積極的に活動を展開して参ります。引き続き、協会活動にご理解・ご協力の程、お願い致します。



「振り返ろう!学校ソーシャルワーク実践 —スクールソーシャルワーカーたちの主張—」

シンポジスト 村松 静予 福岡市教育委員会他 スクールソーシャルワーカー
 川野 真実 筑前町教育委員会他 スクールソーシャルワーカー
 野中 勝治 苅田町教育委員会他 スクールソーシャルワーカー
 座 長 奥村 賢一 福岡県スクールソーシャルワーカー協会 副会長
 福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 准教授

準会員 北原 咲香

最近の研修会では参加している学生会員の方やSSWの人数に驚きます。私がSSWになった8年前からの数年間は、知っている方ばかりでしたが今では知らない方も増え、福岡で活動するSSWや興味をもつ学生が多いことがよく分かります。シンポジウムでは3名の方がこれまでの実践を振り返り、努力されてきた様子が伝わりました。「1年目だからまだ出来ない」ではなく、1年目だからこそ、まずは知ってもらうためにどうしようかと必死に取り組まれており、私の1年目や2年目の頃とは大違いでした。強みに変えるところがまさにSSW。唐津市には3名のSSWがいるため活動状況の見直しや振り返りをし、課題をみつめ目標を立てています。しかしそれは全体の目標であり私自身の課題や目標については明確にしていなかったことを、研修会を通して気づきました。8年目を迎えてもSSWの仕事は難しく、うまくいかない時はあります。しかし、先輩SSWの方や仲間に相談できるおかげで続けられています。私もSSWに憧れていた一人で、何年たってもSSWが大好きといえるような仕事をしていきたいですし、出来るように目指していきたいと思えます。

正会員 大石 浩美

大会シンポジウム『振り返ろう!学校ソーシャルワーク実践—SSWたちの主張』に参加させていただきました。最初に座長の奥村先生が「決意表明のような会」と言われましたが、まさに日ごろの取り組みが目に見えようかのような意欲的な発表が続きました。発表の中で、「魅せる」という表現がありました。言葉自体の印象はソーシャルワークとは無縁に感じますが、学校の先生方にこういった職種を認知していただくためには、感動していただけるような取り組みも心の隅において活動したほうが良いと考えていたところだったので、恐らく目に留まったのだと思えます。

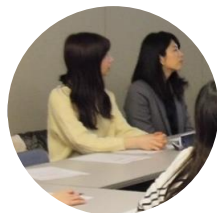
日々の活動の中で、「ここは意欲的に前に出していきたい」という主張する部分と、まだSSWが活動を始めて数年ということも頭に置き、人として謙虚であることは間違いなく必要だと考えます。自治体の活用の仕方の違いはあれ、今回のシンポジウムであらためて自分のあり方について見つめなおすことができたように思えます。ありがとうございました。

学生会員 浦田 梨央

今回シンポジウムに参加させていただき、現場で行われている支援の実際や、SSWの方々は何を感じながら支援をしているのかを学ぶことができました。

学校現場での立ち回り方や会議における役割等について、そこでSSWが取り組んでいることや、悩んでいたことを聴くことができ、現場で活躍している方々は実践と共に生じる葛藤を乗り越えてきたということがわかりました。3名の方はそれぞれに強みがあり、それを活かした実践を行っていました。給食時に教室を回って、くまモン体操を行ったという話を聴いて、イメージに捉われないユーモアのある取り組みに衝撃を受けました。三者三様の取り組みがある一方で、SSW共通の専門性があり、それを基盤に自分の強みを出しつつ、相手の強みをより引き出せるような実践を知ることができました。その中で、それぞれの取り組みは、何のために行ったのかはっきりと述べられていて、取り組みを行う目的を明確にしなければならないと再確認しました。また、共通してSSWの将来を考えて日々実践しているということが印象に残っています。各々がSSWという職業のための目標を掲げ、高い意識のもとで様々な実践を行っていることに深い感銘を受けたと同時に、自分もより学びを深め、SSWとしての意識を養っていきたくて大会が終わった今感じています。

SYONIN TOKUBETSU KISO



2015.04.11(SAT)

▶ 初任者研修

「座談会～現任者と話そう！～」

蒲池 恵 他

福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー

▶ 特別研修

「ピアサロン～みんなのオフレコ広場～」

奥村 賢一

福岡県スクールソーシャルワーカー協会 副会長
福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 准教授

今回の初任者研修では、現任者と初任者の座談会形式で行われました。現場に出たばかりで、学校では何をしたら良いのか、先生方との信頼関係を構築していくうえで、どういったことに気を付けているのか、関係機関とはどのように連携していくのか、といった初歩的なことも、各現任者から活動の具体的な場面・状況などを踏まえて聞くことが出来ました。SSWは同じ職種であっても、地域が違うとなかなか会うことが出来ないの、このような研修会で普段会うことのない現任者からの助言を聞くことが出来、とても貴重な機会だったと思います。現任者も複数名いたため、それぞれの配置形態や個性に応じた対応・支援を聞くことが出来たので、そこから自分の状況にあった対応・支援を学ぶことが出来ました。また、自分と同じ初任者が今、どんな活動をして、どんな悩みを抱えているのかを知る機会にもなりました。初任者という立場は同じでも、新卒者と以前他の機関で働いていた方とは質問の観点も異なっていたため、良い刺激にもなりました。

正会員 山内 未紗希

久しぶりの研修参加でした。

特別研修として、奥村先生のファシリテーションのもと、ピアスーパービジョンの時間でした。自己紹介で当然のごとく繰り返されるすごい技の数々。なんて芸達者なワーカーさん達。まずは、驚きと共にSSWに必要な力のスーパーバイズを受けました。続いて、今の悩み・困っている事などのシェア。日々の実践での思いに共感したり、新たな役割にチャレンジされる若々しいドキドキとワクワク感が伝わって来たり、リフレッシュ出来る楽しい時間でした。最後に、今年度の自分自身の指針とする事を確認・宣言し終了しました。

いつも、自分一人でぐるぐると自問自答し自己完結していると煮詰まってしまうので、風を通すいい時間となりました。

ありがとうございました。

正会員 吉田 美抄子

▶ 基礎研修

「スクールソーシャルワーカーの働くフィールドを知る
～学校とは何か、学校教育とは何か～」

遠入 哲司

福岡市立城原小学校 教頭

まず、私を始めとして初任或いは経験の少ないSSWの為に、定期的にこうした研修の機会が与えられる事は、大変有り難いことだと考えます。

今回の基礎研修は、外部より講師の先生をお招きして講義いただくというものでした。講師の先生は、福岡市内の小学校の管理職をなさっている現役の先生であり、内容としても、現在の小学生を取り巻く環境や現場の先生方がSSWに寄せる期待や現状について現実感が持てるものでした。学校という領域の中で、比較的新しい職種であるSSWがどのような期待と関心を持って受け入れられているかという点は、興味深いテーマでした。

また、「5分でSSWの仕事を説明しよう!」という演習は、そのままSSWという職種・しごとの本質を見つめさせられるものでありました。と、同時に現場に入った初任のSSWが、これから幾度となく説明を求められる「あいさつ」のようなものでもあり、すぐに役立つ「ちょっとした魔法」を得た思いです。

最後に、現場での経験と並行して、継続的かつ体系化された研修が用意されている福岡県のSSWは大変に恵まれていると考えると同時に、それに応えるだけの働きを子どもたちに返さなければ、との思いを新たにしたところです。

正会員 新島 幸祐



YOSEI TOKUBETSU KISO



2015.06.13(SAT)

▶ 養成研修

「学校ソーシャルワーク実践
スクールソーシャルワーカーの役割と機能」
奥村 賢一
福岡県スクールソーシャルワーカー協会 副会長
福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 准教授

▶ 特別研修

「ワークショップ『シェアして広げる社会資源』」
高口 恵美
大牟田市・八女市教育委員会
スクールソーシャルワーカー

本協会が開催した6月の研修会に参加しました。会場は北九州市戸畑区で梅雨時期の小雨が降る週末であったため福岡市内に住んでいる私にとっては研修に参加するのは正直億劫でした。しかし、会場に着くと同僚の顔ぶれが揃っていたので、皆も頑張っているのだと思うと気持ちが引き締まってきました。養成研修はあっという間に時間が過ぎて行きました。それは内容がSSW1年生の私が今疑問に感じていることでタイムリーに知りたかったことが盛り沢山であったからです。中でも特に知りたかったのが「3年後にSSWが外される学校で困らない状況を作るためにどのような動きをしてよいのか」「学校現場で多問題を抱えた子どもの支援はどこまでがSSWの範疇なのか」でした。この研修でこの疑問について偶然にもピンポイントで話がありました。一つ目については「SSWは単独で動く専門職になつてはならない。教員を巻き込んで子どもの支援をする。チームで動く。モデル作りをする」ということです。もう一つについては「SSWの支援は子どもの教育を保障するものに繋がっていかねばならない。そのすみ分けをしっかりとその他の課題は他機関に繋ぐ」ということです。このことで、今後の自分の動きにヒントを得て見通しが立てやすくなりました。

数多くある疑問や戸惑いがこの研修を受講して少し減り気持ちが軽くなったことと会場の窓から赤い若戸大橋が見えたことで小旅行に来たようで気分転換ができた研修となりました。

正会員 平岡 紀江

2グループに分かれて、『カタルト』を使うでの自己紹介。普段何気なく使っている接続詞ですが、思わぬ接続詞が出ると文章を繋げるのに一苦労する人も出たり、一気にグループ内が和みました。自己紹介後は、各グループで、「こんな社会資源・サービスがあったらいいな」というものをメモに書き出して大判用紙に貼り出し、出されたメモからテーマを決めて話し合っていました。その後はグループ半分の人数をシャッフルして再び話し合い、最後に話し合ったことを発表して終了という流れでした。現場で働いているベテラン勢ばかりなので、あったらいいなのメモも沢山！ただ、支援している地域によって、A地域にはないけどB地域にはあるサービス、似た制度ならうちの地域にあるよ！など違いも見られ、メモから話題がどんどん広がりました。また、新しくできたサービスの紹介をする方がいたり情報交換の場にもなったりしました。全体を通して感じたのは、サービスや制度の不足を感じながらも、自身の連携や知恵を絞って資源不足を補いながら支援にあたっているということでした。私達のこうした活動が新たな資源を生み出すことに繋がるように、また日々の仕事に取り組みたいと改めて感じました。

素敵な進行で場を盛り上げてくれた高口さんに感謝です。ありがとうございます！

正会員 角田 かおり

▶ **基礎研修**

「学校ソーシャルワーク実践を振り返る」

池田 敏

添田町教育委員会 スクールソーシャルワーカー

S S Wになり約3ヶ月です。これまでも相談業務に従事してきましたが、学校現場ならではの課題や社会資源、連携体制等があり、共に学ばせていただきながら、子どもたちの状況改善に努めています。

この度の基礎研修においては、事例や演習を取り入れていただいたことで理解しやすく、自身の支援方法を見つめ直すいい機会になりました。特に、業務上多くの個人情報を取り扱い、関係機関と密に連携を取ることから、秘密保持への意識を強く持ち直せたことは、今後の業務に反映していけるものと感じました。

現場では、迅速な判断や優先順位をつけて対応せざるを得ないことも多く、S S Wの専門性が問われていることを実感しています。これから先、子どもたちを取り巻く多様な課題に直面した際にも、S S Wの機能を十分に発揮し、相手の気持ちや生活状況に寄り添いながら、子どもの人権・教育・発達を守る役割を担っていきたいと思います。

今回は貴重な学びの機会をいただき、ありがとうございました。今後も現場実践や研修、事例検討等で自己の専門性を高めていき、きめ細かく丁寧な支援を心がけていきたいと思えます。

正会員 上島 奈生



YOSEI



SENMON



KISO



2015.08.08(SAT)

▶ 養成研修

「学校ソーシャルワーク概論」

門田 光司

福岡県スクールソーシャルワーカー協会 会長
久留米大学文学部社会福祉学科 教授

▶ 専門研修

「ピアサロン～3年目以上で語り合おう！～」

下田 学

九州工業大学 キャンパスソーシャルワーカー

門田先生による『学校ソーシャルワーク概論』の研修を受け、ソーシャルワークの起源を詳しく知ることができ、大変勉強になりました。アメリカにおいて、SSWになるのは3つの資格保有が要件となっているということを知り、求められているレベル（質）がいかに高いかということが分かり、刺激を受けました。また、よく耳にする「社会福祉士」という国家資格は、日本と韓国にしか存在しないということに驚きました。

普段は現場で実務を行っているにも関わらず、『学校ソーシャルワーク概論』に関して、自分自身の知識が非常に乏しく感じていました。今回の研修で、しっかりと基礎を学び直すことができたと感じています。日本における教育に関する問題は、多方面でとりざたされていますが、今一度、SSWに求められているものは何なのかということを考え直すことができました。

今後の実践等において、物事の考え方や見方などを初心にかえて見直したり、変化（工夫等）をつけたりすることができるのではないかと感じています。常日頃より自己研鑽を怠ることなく、成長し続けていかなばと改めて強く感じました。

正会員 安武 大志

今回の研修は、下田さんと奥様のお心遣いで、コーヒーを飲みお菓子をつまみながら、ゆったりとした雰囲気の中での語り合いができました。日頃話せない現場での悩みやそれぞれの価値観を、SSW同士で語り合うことで、自身のソーシャルワークを振り返る貴重な機会となりました。

主に「昔と変わらない視点、変わった視点」について、トークが繰り返されたのですが、「昔はがむしゃらにやってきたところを、最近では上手に人に頼れるようになった」「学校のことを分かってきたことで、求める役割の範囲がわかってきた」等、共感できるところや参考になるところ、様々な話がありました。

経験年数は違っても、始めは私と同じことで悩んだり考えたりしていたのか、ということが分かり、気持ちが楽になりました。また、他の方の意見を自身の所属する市町村に当てはめて考えることで、新たな気づきが出来たように感じます。

私も含め、一人職場の方々はきっとこのような場に飢えているのではないかなと感じたので、是非またピアサロンを開店してほしいと思いました。

正会員 川野 真実

▶ 基礎研修

「明日から使えるグループワーク」

田上 麻衣子 他

福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー

今回の研修では、結婚相手を紹介する会社になりきり、男女それぞれの要望をもとに5組の理想のカップルを成立させるというグループワークを行いました。最初に、各々で男女の要望を読み、個人決定を行いました。その後、意見を交換し集団決定へと移ったのですが、皆意見がバラバラだったためお互いに意見を聞き合い、まとめていきました。最終的にはグループ内で話し合ったことを全体で共有することでより多様な見方があることを実感でき、同じ情報でも聞き手それぞれの経験や考え方によって、また重点の置き方によって、捉え方は違うものになるのだなと改めて感じました。複数で話し合いをする際、意見をまとめるということは簡単ではないと思います。立場が異なるとなおさらです。しかし、より正しい結果を導き出すためにも自分だけの判断で決断付けるのではなく、一つの事例でも意見を交換し合い様々な角度から捉えることで、他の可能性の気付きに繋がると実感することができました。また、自分の考え方の傾向も知ることができたため、自分の判断を省み、今後グループワークをする際に活用していきたいと思っています。ありがとうございました。

学生会員 宮本 燿子





福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー

配置3年目の校区を引き継いだ身であるため、これまでの実績を汚さぬよう、しっかり仕事をしなければいけないと思っています。具体的な目標は2点。1点目は、私なりの新たな足跡を残すことです。2点目は、SSW配置最終年であることを常に意識し、支援が必要な児童・生徒・家庭への支援を引き継いでもらえるよう、先生方への働きかけを行っていくことです。SSW1年目の私ですが、相談援助職の専門性を必要場面で示していき、SSWが児童・生徒とその家庭にとって、また学校運営にとって必要不可欠な存在であると認識してもらえるような活動をしていきたいです。また、福岡市SSWの一員として、全体のレベルアップにつながる活動に積極的に取り組みたいです。

3年後、どんなSSWになっていたか?

「常勤化SSW！」=それぐらい学校にかかせない存在になっていたか!



須恵町教育委員会 スクールソーシャルワーカー



今年の3月に大学を卒業し、4月から糟屋郡須恵町でSSWとして活動をしています。高校生の頃に志したSSWの仕事が出来る喜びを感じる一方、SSWとしてはもちろん、社会人としてもまだまだ未熟な自分に対し自信を無くし、悩むことも多くあります。しかし、子どもたちの笑顔と先輩のSSWをはじめとした周囲の方々に支えられ、日々活動することが出来ています。

今年度は全ての事が初めてで、たくさんの失敗があると思います。それらの失敗から一つでも多くのことを学び、今後の活動に生かして専門性を高めていきたいと思っています。ですが、何よりもまず、一人の社会人としての人間力を身につけていきたいと思っています。子どもたちや保護者、先生方に「つい話したくなる」「話すと気持ちが軽くなる」と思ってもらえるような人になりたいと思っています。この1年で人としての基礎をしっかりと築き、専門職として長く活動できるよう頑張っていきたいと思っています。

3年後、どんなSSWになっていたか?

こどもに寄り添うSSW



今年度採用の初任者の方に一年目の意気込みをきいてみました。



事務局
荒巻 智之



おしゃれ職人の
奥村副会長

副会長
奥村 賢一



私の池田さん



SMAP大好きな梶谷さん

事務局
梶谷 優子



身と心のパワースポット
高口さん



研修委員会
池田 敏

研修委員会
高口 恵美

マイガースの門田会長

会長
門田 光司



包括力抜群の頼れる
デルクター下田事務局長

事務局長
下田 学



広報委員会
蒲池 恵

福岡のスーパーSSW
蒲池さん



第2期運営委員紹介

今期もよろしくお願ひします。
今回は、あいうえお順で他己紹介形式です！！

笑顔の宝石箱や～田上さん

広報委員会
田上 麻衣子



女子力高し寺田さん

広報委員会
寺田 有起



お兄ちゃん的存在土井さん

研修委員会
土井 幸治



ゆったりとした
包容力のある荒巻さん

研修委員会
横山 明希



クールな司令塔
山崎さん

事務局
山崎 千栄子



今まで出会った中でも
多才な中筋さん

事務局
森 真司



実は小中学校一緒に嬉の横山さん

ハートウォーミング森さん

広報委員会
中筋 啓介





Shinji Mori

中学校区拠点巡回型SSW

Keisuke Nakasují

派遣型SSW



Fashi on Check

現場で働くSSWは普段どのような服装や身なりで活動しているのでしょうか。
中には、場面にに応じて切り替えたり、現場で溶け込むための工夫があったりと、個性やこだわりを持ってモチベーションアップにつなげるSSWもいるようです。

今回は福岡市のメンバーに密着です！
あなたの町にも、突撃で取材に伺うかもしれません



Megumi Kamachi

派遣型SSW

Aki Yokoyama

中学校区拠点巡回型SSW



SSW Fashi on

SSW Fashi on



SSW Fashi on

SSW Fashi on



SSW Fashi on



SSW Fashi on



SSW Fashi on



SSW Fashi on

T：今回はファッションがテーマになりませんが、日頃から服装について考えていることはありますか？

N：心がけていること・・・人に見られて恥ずかしいくない服装ですかね

K：具体的に取っ入れられていることは？

N：まず基本に忠実に。冬はスーツ、ネクタイ。夏はクールビズで半袖シャツとスーツのパンツという。最低限基本的なところはおさえておきますね。

Y：どんな場面でも対応できる服装ですね。子どもにも合うし、一緒に遊ぶこともあるし、一方、機関訪問もするのだからといってその都度着替えるの、持ち歩くこともできないので・・・どんなところで大丈夫な服装を考えていますか？

T：具体的にとりいれていることはどんなことがありますか？

Y：たまにスカートをはきたいなと思うときもあるけど、学校に行くときは基本パンツスタイルですね。動けるし、後は、あまり露出しすぎない服装ですかね。夏は暑いですが、カーディガンをはおつてみたりとかしてますね。

K：服装も相手に与えるプラスの要素として印象づくられるものかなと思つているので、それこそスーツ一枚着たら私の一言がかわるのであれば着るという感じで、相手に伝わる方法のために服装を活用したりしますね。やっぱりイメージをもつてほしいときは、やっぱりイメージのような色を着るとか、やわらかいような色を着るとか、おもしろいような色を着るとか、なるべく奇抜な色の服を着ないような心がけはしてましたね。

T：色の力がありますよね。特にみなさんのようなこだわりはないですが、まあ季節に合った服装、場に合った服装、ぐらいいですかね。見た目も大切ですけど、どちらかというと僕は機能性も大事にする。寒ければ着る、冬であればカイロ、デイガン一枚はおつて・・・体調も大事じゃないですか(笑)



T：寺田有起(インタビュー)

Y：森山明希(中学校区拠点巡回型)

M：横山明希(中学校区拠点巡回型)

K：森真司(中学校区拠点巡回型)

N：蒲池寛(派遣型)

N：中筋啓介(派遣型)

T：今日のポイントは？

K：今日は研修講師だったので、シャツをたくさん持っているのですが、その中で一番好きなシャツを選んできました。気合をいれるため。

T：なんか服装は、モチベーションにもつながりますよね。好きな服を着ると頑張るような。

Y：なんでしょうね・・・だいたいパンツに襟付きのシャツなんです。今日は半袖だったので、朝寒かつたしカーディガン着た的な・・・(笑)

一同：(笑)

Y：シャツはたくさん持っていないので、同じ組み合わせになりますね。あとは、シャツを入れるか入れないかという感じですね。

N：ポイント・・・今日はSVとか研修があったので、そんなときはお気に入りの・・・

一同：(笑) やつぱり！

N：数あるシャツの中から、気に入っているやつを着たりしますね。

M：僕が今日これを着ているのは、ただのローテーション。

一同：(笑)

M：でも、やつぱり買うときは好きな色で買いますよね。ピンクが好きなので、今日は奥さんがアイロンをかけてくれたので、どれでも選べたので、その中から好きな色のピンクを選んできて着てきました。





SSW Fashion

T：配置形態ならではの服装に心がけられていることは？では派遣型から・・・
N：派遣型は、先生や関係機関の方々に会うということが多いので、最低限マナーを満たすように、誰がみても変じやないような服装。僕の場合は、派遣の移動が応範囲なので、移動では電車や自転車をつかうので、さつきもていた機能性、通気性があるとか、汗をすぐすいとるとかには気をつかって服装を選んでいきますね。

K：派遣型の場合、はじめましての機会が多いので、なるべく透明度がある服装というか相手にカラーづけしないような服装を心がけていますかね。去年までが中学校区拠点巡回で、今年からが派遣型なので、その中で究極にかわったなと思うことは、派遣型の方が圧倒的に女性的な服装を着るようになったというのが一つあって、何でだろうと考えたときに、やはり中学校区巡回のときは女性らしさを服装で出そうとはしてなかった。どうしても派遣型だと対応する相手が大人ということもあって・・・大人に対しては、女性の身だしなみや振る舞いを意識するようになりましたのかと思っていました。
T：わかります。逆に派遣型から中学校区巡回型になったら、スカートをはかなくなりました。

T：では、中学校区巡回型では？
Y：中学校区巡回型だと、小学校区が圧倒的に多いので、小学生と会うことが好きなんです、やわらかさを出色が好きな色を選ぶようにしたりとか、それこそ一緒に掃除したり逆上がりしたりするのでパンツスタイルですね。色々荷物を持って移動することが多かったり、運動場で走り回って子どもたちが遊ぶことあるので靴はヒールがないものを選んでるものもあるし・・・あとは、何校かまわる学校の平均的な服装を考えて合わせたりもしますね。
M：なんでしょ・・・汚れてもいい服装というか・・・普段づかいのスーツと外部の研修講師に行くときのスー

ツは区別したりしますね。あとは子どもたちから見たら「先生」なので、「先生はやつてるじゃん」と思われないう服装・・・特に中学生とかです。そういうところはこころがけていますね。

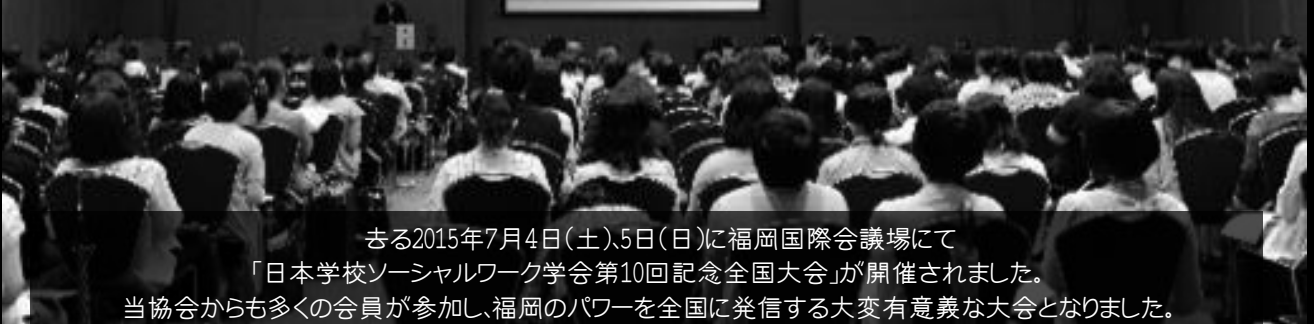
K：そうですね。平均的な服装というのちそうですが、やっぱり学校の先生たちが大切にしていることをこわすというか・・・影響を及ぼすようなことはしたくないですね。学校の先生たちの中では当たり前なことでも、我々からしたら案外気づいてなかったりすることもあるから、平均をみながらというのにはわかりやすいかもです。
M：毎日会う先生方なので、ちよつとずつネクタイの色味が連続しないようにもしていますね。

T：ファッションを通じて楽しんでいくことは？
M：僕は、ささやかですけどネクタイとかタイピンですかね。
K：私はハンカチですかね。そこで自分らしさを出したりしますね。
N：シャツのちよつとラインが入っているやつを着てモチベーションをあげたりとかです。冬だとですね、協会のピンバッジをつけるとパシッときますね！
M：ネクタイでいえば、合う人によって結び方をかえたりしますね。
女性人：へえー

M：年配の方であれば、ネクタイの三角を大きくして結んだり、若い人であればシュツとして結んだりしますね。
T：靴とかはどうですかね？
M：革靴ですね。
Y：履きつぶすので、安いやつですかね。
N：黒の地味目の動きやすい靴ですかね。
Y：持ち物編は、また別ですかね？
T：そうですね、乞うご期待ですね。



日本学校ソーシャルワーク学会第10回記念大会 福岡大会 「学校ソーシャルワーク実践の動向と今後の新たな展開—10年目の起点—」



去る2015年7月4日(土)、5日(日)に福岡国際会議場にて「日本学校ソーシャルワーク学会第10回記念全国大会」が開催されました。当協会からも多くの会員が参加し、福岡のパワーを全国に発信する大変有意義な大会となりました。

共催

福岡県スクールソーシャルワーカー協会



上野 健太

福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー



KENTA UENO

福岡市で昨年4月からSSWをしています上野健太です。私は高校時代からプライベートでバンド活動をしており、休日は音楽スタジオに通っています。吹奏楽部に入部したことをきっかけに始めたドラムも続けること今年で12年目。音楽を通して色んな人と出会うことができ、出会った人たちから受けた影響は数えきれないほどです。「努力は人を裏切らない」「継続は力なり」という言葉は受け売りですが、色んな場面で今でも私を支えています。

福岡市のSSWの中でも音楽好きが集まり、昨年「福岡市SSW軽音部」が発足されました。また、他の福祉職の方とも一緒に音楽ライブを行ったり、新しくバンドを結成したりと、私にとって、音楽は多くの人たちと出会い、交流をするきっかけになっています。SSWになって2年目、私はこの出会いをもっと学校ソーシャルワークに活かしていきたいと思っています。

子どもたちは私たち大人のことをよく見えています。子どもたちが笑顔になれるよう、まずは自分自身が本気で遊び、本気で笑えることが大切だと思います。遊びや趣味を通して多くの人と出会い、そこで得た経験や喜びなどのエネルギーを子どもたちの笑顔に変えていくことが出来れば幸いです。

FASSWより：協会情報は、ホームページとFacebookにも掲載しております！！

ホームページ fassw-2012.jp

Facebook 「福岡県スクールソーシャルワーカー協会」

研修事業より：次回の研修会は、10月10日（土）です。詳細はメーリング等にてご案内します。ご参加お待ちしております。

広報事業より：次回広報誌の配信は、12月末を予定しています。

発行責任者： 奥村 賢一

編集担当： 広報委員会 蒲池 恵 寺田 有起 田上 麻衣子 中筋 啓介

お問い合わせ

福岡県スクールソーシャルワーカー協会 事務局

〒839-8502

福岡県久留米市御井町1635番地 久留米大学 文学部社会福祉学科 (担当/山崎)

Tel : 0942-43-4411 Fax : 0942-43-5160

E-mail : fassw-2012@hotmail.co.jp

